

# 宿願の三河教育会館建設へ

新会館建設委員長 岡田 和幸



本年六月、待望久しかった三河教育会館の建設に着手しました。うれしい限りです。

例えば、長い道のりでした。

昭和三十一年に竣工した竜城会館は、半世紀を経て老朽化が進み、補修を繰り返してきました。

そうした状況から、先輩方が新会館建設を企画され、何度も協議されましたが、用地の取得など諸般の事情により、着工には至りませんでした。

平成二十四年、愛知教育文化振興会の公益財団法人認可を契機に、新会館建設が発議されました。建設準備委員会が組

織され、十二名の委員が①建設時期・建設場所・土地交渉、②設計依頼・入札方法・仮事務所、③設備計画・備品調達・会館の名称、④予算の計画・資金の調達の四部会に分かれて、三河教育の拠点づくりへの夢を語り合いました。

二十五年から三年間、新会館建設委員会は精力的に協議を重ね、誠意を尽くしての交渉によって、地権者の理解を得て建設用地が確保されました。

そして、歴代の文振職員の献身的な努力と三河教育関係者の支援で蓄積された建設資金によって、ここに着工する運びとなりました。

建設委員会は新しい教育の創造をめざす施設・設備を備えた設計図の検討を重ねました。

一階には文振事務室を中心に館長室・理事長室・刊行物保管室、二階には会議室四室・編集資料室・応接室・談話室、一部三階には図書室と文書保管室が設置されます。



三河教育会館

完成予想図

平成28年6月 着工

平成29年4月 竣工予定

三河小中学校長会、三河教育研究会の研究資料の保管、各学校の研究実践記録の保管、各種刊行物の保管を通して、三河教育資料センターの役割を果たすのも新会館の大きな特徴です。

新会館が竣工する二十九年度は、公益財団法人愛知教育文化振興会が創立六十

周年を迎えます。

三河の教師、教育関係者、文化諸団体関係者が新装なった三河教育会館に集い、語らい、研修し合って、三河の教育文化がいつそう進展することを、心より願っております。